

未来の現場をともにつくるコマツ100年のアイデンティティー

事業全体像

持続可能な成長を実現するため、企業に求められること。それは外部環境の変化に即応する強靱でフレキシブルな収益構造と、ますます高まるESG課題の解決を両立することにあります。コマツは長年培ってきた”ものづくり”基盤を強みとし、お客さま、代理店、パートナー、地域社会、そして私たちすべての現場をダントツでつなぎ、社会の要請に応えていきます。



注記のあるもの以外は2020年度実績もしくは
2021年3月31日現在

未来の現場をともにつくるコマツ100年のアイデンティティ

コマツの強み

コマツの強み

01

コンポーネントの自社開発・生産

コマツは、主要なコンポーネントを自社で開発・生産しています。コンポーネントを自社で開発・生産するからこそ、新しい技術革新が生まれ、コンポーネントの耐久性や信頼性を向上させることができます。コンポーネントに真摯に向き合うことで、機能や品質を磨き上げることが、お客さまの満足度の向上につながるという信念のもと、コマツのコンポーネントはこれからも進化を続けていきます。

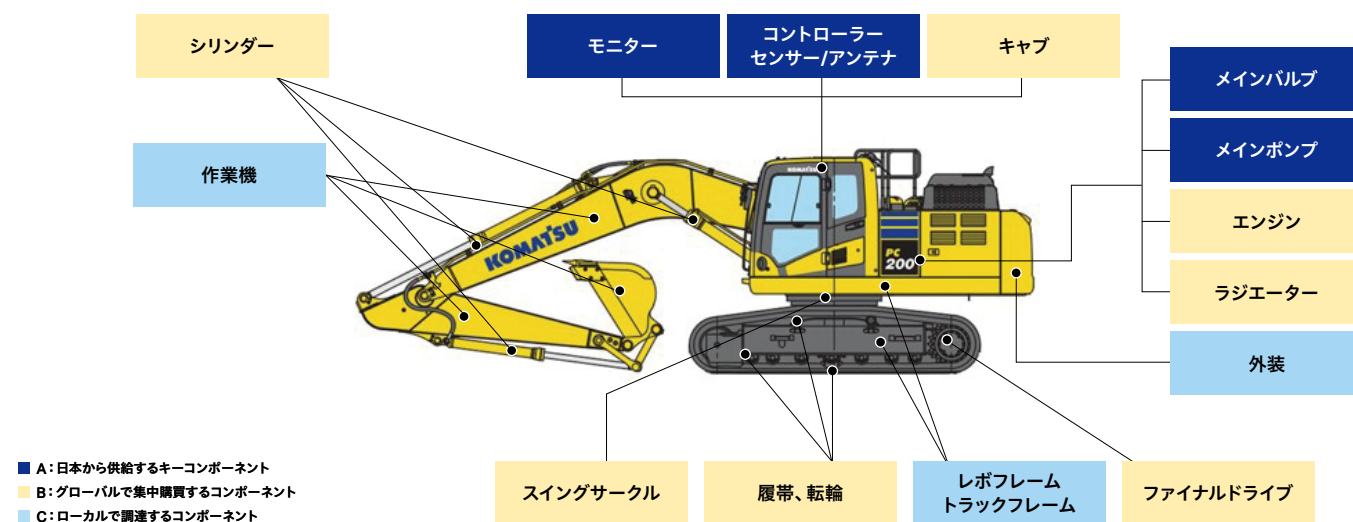
コンポーネントを自社開発・生産しているからこそ、コマツができること

1. 技術革新を継続すること
2. 全世界に同一品質のコンポーネントを、需要変動に左右されず、安定的に供給できること
3. コンポーネントの再生ビジネス(リマン事業：P33をご参照ください)ができること
4. 取り付けたセンサーからの情報を解析し、予知保全ができること

主要なコンポーネントの例

エンジン	パワートレイン	油圧機器	電子機器	パワーエレクトロニクス
	・トランスミッション ・トルクコンバーター ・アクスル ・旋回減速機 ・走行減速機 	・ポンプ ・モーター ・バルブ ・シリンダー 	・コントローラー ・モニター ・センサー 	・発電機モーター ・キャパシタ ・インバーター 

中型油圧ショベルのコンポーネントの供給・調達先



コマツの強み

02

IoTで現場をつなげる

「現場」を深く理解することで、課題が明らかになる。課題を解決するために、イノベーションを起こす。コマツは、「IoTで現場をつなげる」ことで、そのイノベーションを実現してきました。

つながるIoTの世界



1.Komtrax

建設機械の情報の見える化



コマツは、1990年代後半から、ITを活用した建設機械の情報の見える化に挑戦してきました。1998年に開発をスタートした建設機械稼働管理システム「Komtrax」は、GPSによる位置情報や、稼働情報を遠隔で確認できるシステムで、全世界で65万台(2021年6月末現在)に搭載されました。「Komtrax」は、位置情報、稼働時間、機械の異常、燃料消費量など、お客さまの生産性向上に役立つ情報を提供し、現場から離れた場所でも車両を管理することができます。「Komtrax」を搭載することで、部品の交換時期、機械のメンテナンスのタイミング、中古車の下取りまで、車両の生涯にわたるサポートを、コマツはお客さまに提供しています。今年度20年ぶりにシステムを大幅に刷新し、より詳細な稼働データをさまざまなアプリケーションに活用しやすくするなど、更なる向上を図っていきます。

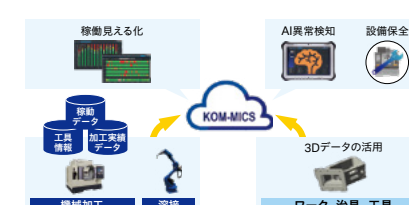
2.スマート コンストラクション

施工の見える化

施工の見える化への挑戦が、2015年に開始したスマートコンストラクションです。ドローンを使って現場を3D測量・デジタル化し、ICT建機で施工することで、リアルな現場とデジタルの現場を同期させ(デジタルツイン)、施工の最適化を実現します。スマートコンストラクションは、日本では14,000を超える現場(2021年6月末現在)に導入されました。2020年4月には、スマートコンストラクションのデジタルトランスフォーメーションの実現を加速する、新たな4つのIoTデバイスと8つのアプリケーションの導入を開始しました。今後、ITリテラシーの高い欧米等のマーケットにスマートコンストラクションを拡大していきます。

3.Kom-mics

生産現場もIoTでつなげる



コマツの「IoTで現場をつなげる」は、我々の生産現場にも展開されています。生産設備の状態や、加工状況を見る化し、改善を図るために開発された「Kom-mics(コムミックス)」は、2019年度に第8回ものづくり日本大賞 製造・生産プロセス部門 内閣総理大臣賞を受賞しました。「Kom-mics」は、協力企業の設備にも導入され、コマツの各工場の生産技術部ソリューショングループが生産性向上のサポートをしています。日本の製造業の発展、特に中小企業が生産現場のDX化促進に寄与することを目的として、2021年4月に外販を開始しました。

コマツの強み

コマツの強み

グローバル生産体制

03

コマツは、1950年代に建設機械の輸出を日本国内の他社に先駆けて実施しましたが、為替や関税のリスクを軽減するために、1970年代より海外生産に本格的に取り組みました。現在、建設機械の生産拠点は、国内12拠点、海外69拠点あります。

「需要のあるところで生産をする」を基本とし、建設機械の主力機種である20トン・30トンの油圧ショベルは、7割以上が海外工場で生産されています。現地生産をすることで、①顧客からの信頼の獲得、②現地ニーズの製品への織り込み、③品質問題の早期解決、④リードタイムの短縮を狙っています。

海外での生産を成功させるためには、品質の作り込みが欠かせません。日本の工場がマザー工場として、チャイルドである海外工場の品質の作り込みに責任をもって指導しています。また、キーコンポーネントを自社開発・生産していることが、グローバルで同一品質のもののづくりを支えています。

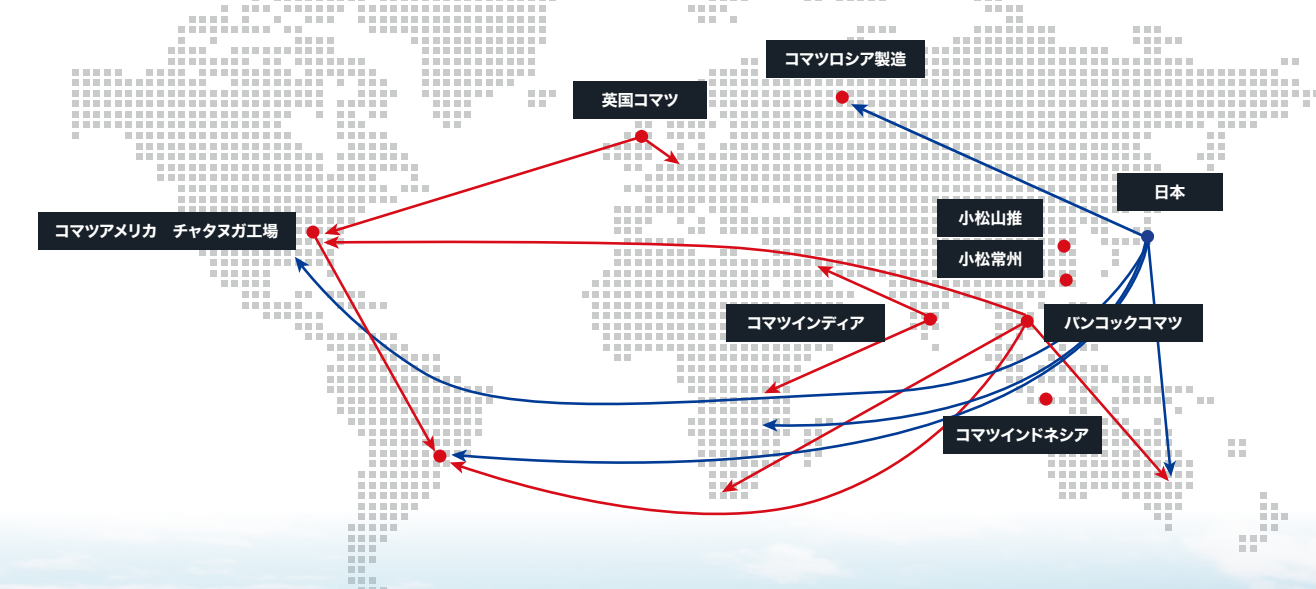
中型油圧ショベルの生産拠点は全世界で9拠点あり、需要の変動に応じて、クロスソーシングが可能です。同一図面で、同一品質のものを生産しているからです。このクロスソーシングにより、不測の事態が発生した時の、BCP対応にもレジリエンスを発揮することができます。

コマツのグローバル生産体制は、コマツの「品質第一」に支えられ、お客さまに品質と納期とコストでご満足いただける製品を提供していきます。

油圧ショベルのグローバルクロスソーシング例

グローバル生産拠点から、各市場へ製品供給できる体制を構築

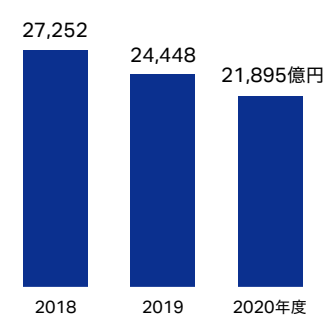
→ 海外拠点間のクロスソース
→ 日本からのソーシング



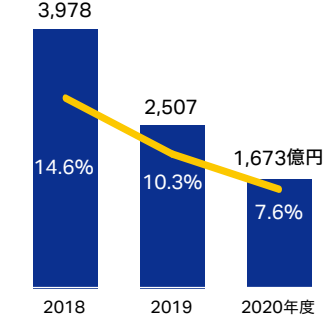
未来の現場をともにつくるコマツ100年のアイデンティティー

セグメントの事業概況

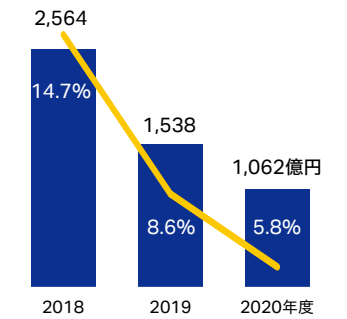
連結売上高



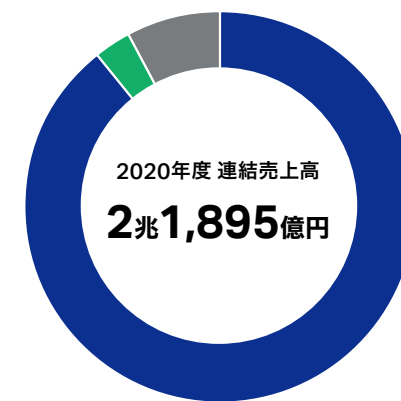
営業利益と売上高営業利益率



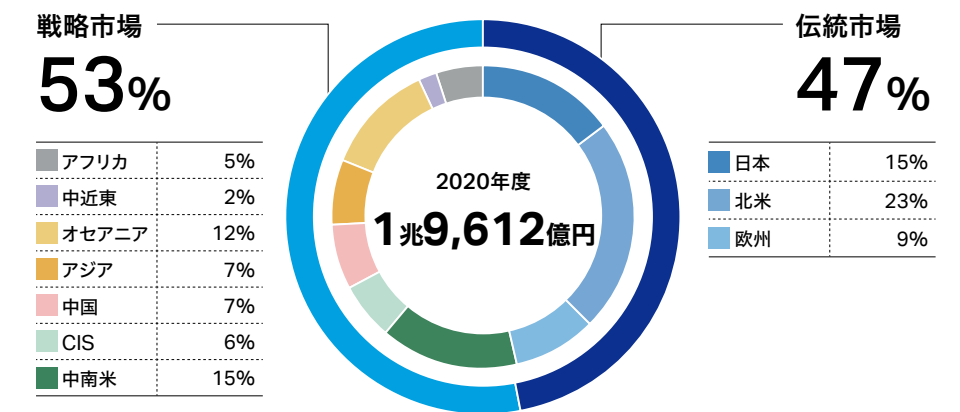
当社株主に帰属する当期純利益とROE



セグメント別売上高 構成比



建設機械・車両部門売上高 地域別構成比



建設機械・車両部門 1兆9,612億円

コマツは、世界の建設現場や鉱山現場で活躍する建設・鉱山機械や、フォークリフト、林業機械、資源リサイクル機械、地下建設機械など幅広い商品・サービス・ソリューションを提供しています。商品のフルラインナップ展開とともに、圧倒的な高品質と技術革新によって、建設・鉱山機械分野で国際的なリーダーとしての地位を確立しています。



ダンプトラック

リテールファイナンス部門 583億円

コマツ商品の販売ツールとして、お客さまの資金負担軽減などに貢献するファイナンス(金融)事業に取り組んでいます。「Komtrax(所在地情報、稼働状況、エンジンロックなど)」技術を活用した延滞債権発生の予防や、スピーディーな審査、競争力のあるファイナンス条件などを強みとし、お客さまとの長期的な関係の構築を目指しています。



産業機械他部門 1,699億円

建設機械・車両部門と並ぶ中核事業として、自動車のボンネットやサイドパネルの成形に使用される大型プレス機械や、板金機械、工作機械、半導体露光装置用光源(エキシマレーザ)などを提供しています。ほかにも、防衛省向け特機などの生産も行い、さまざまなお客さまの事業活動に貢献しています。



大型プレス